

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援Kiitos羽村			
○保護者評価実施期間	2025年 10月 6日 ~ 2025年 10月 24日			
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	47	(回答者数)	44	
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日 ~ 2025年 12月 5日			
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	6	(回答者数)	6	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 25日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	グループ・個別・運動の3つの活動に取り組んでいること。特にグループ活動得意としている。	各活動の内容や一人ひとりのお子さんに対する対応や配慮などを毎日振り返り、改善につなげるよう取り組んでいる。また、チームで取り組んでいくことを意識しているため、話し合う時間を多く設けている。	職員一人ひとりのスキルや対応力を向上させていくことがより良い活動を提供していくことにつながるため、引き続き、話し合いや外部講師からの助言、研修への参加を通しながら質の向上に努めていく。
2	専門職(臨床発達心理士・作業療法士・言語聴覚士)による助言・指導を毎月受けていること。	専門職からの助言を得たものを活動に活かすようにしている。特に言語聴覚士からは言語面のアプローチ方法を、作業療法士からは発達段階に考慮した粗大運動の取り組み方の指導を受けながら取り組んでいる。臨床発達心理士からは、環境設定や全体の対応方法、保護者支援について助言を受けている。	引き続き、専門職による視点からの助言・指導を受けながら、一人ひとりの職員がスキル向上に取り組んでいけるよう努めていく。
3	毎週、保護者の方と対面で話す時間を設けていること。	幼児期のため、リアルタイムで保護者の方とお子さんの様子や課題面を共有していけるようにしている。また、日々の育児の困りごとや、対応方法など相談事が挙がった際には、その場で相談に乗り、アドバイスを行なえるようにしている。	引き続き、保護者の方々をサポートしていけるよう、保護者支援のスキルや対応力を、外部講師の臨床発達心理士からの助言や指導、研修への参加などを通しながら取り組んでいけるよう努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	マニュアル系の周知や訓練実施の周知。	前年度の保護者評価を踏まえて、周知に対して改善を行ってきたが、保護者の方の認識にバラつきがある。一度の周知だけでは記憶に残りづらかったり、忘れてしまったりなども一つの要因として考えられる。	周知後モリマインドができるよう、季節に応じて書面や掲示等で伝えるなどの工夫に努めていく。
2	地域交流や保護者交流。	地域交流については施設の規模の小ささや職員一人ひとりの業務量の多さから、地域交流を考えたり計画したりする余裕がないといったことが要因として考えられる。また、保護者交流については、施設側は合同報告の場を保護者交流の場として考えているが、保護者の方にアプローチし切れていないことが要因と考える。	前年度の評価を踏まえて、職員の業務量の改善を行ってきたが、地域交流を企画する体制までには整っていない状態であるため、引き続き改善に取り組んでいけるよう努めていく。保護者交流については、前年度を踏まえて保護者の方同士が交流しやすい場の提供や関係づくりを事業所内で話し合いながら進めてきたが、保護者の方の認識に差があるため、引き続きアプローチ方法などの工夫に努めていく。
3			